

林野庁 東北森林管理局

津軽白神森林生態系
保全センター



林野庁 東北森林管理局

津軽白神森林生態系保全センター

〒038-2754 青森県西津軽郡鯨ヶ沢町大字米町25-2

電話：0173-72-2931

FAX：0173-72-2932

E-mailアドレス:t_shirakami_f@maff.go.jp

<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/tugarusirakami/index.html>





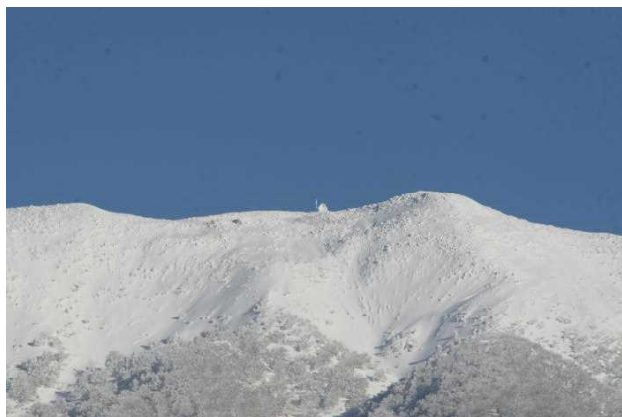
○白神山地と世界自然遺産

白神山地は、日本の本州の北部、日本海側の標高約200mから1,250mの山地帯に位置する東アジア最大の原生的なブナ属の森林が広がる地域で、約12,000～8,000年前から北日本丘陵や山地を覆っていた冷温帯ブナ林が残存しています。平成2年3月に白神山地のうち、青森・秋田両県にまたがる16,971haを林野庁が白神山地森林生態系保護地域として指定し、平成5年12月に世界遺産条約に基づく世界自然遺産に登録されました。

世界遺産地域は、最高峰の向白神岳(1,243m)をはじめ、白神岳(1,232m)、ニツ森(1,086m)、摩須賀岳(1,012m)など、1,000m級の山々が連なり、ブナを主体とする原生的な広葉樹林が広がっています。

○白神山地世界遺産地域管理計画

遺産地域の保全に係る各種制度を所管する関係行政機関（環境省、林野庁、文化庁、青森県及び秋田県）が白神山地世界遺産地域科学委員会の助言を得つつ、生態系の順応的管理を進めるとともに、地元市町村（青森県鱒ヶ沢町、深浦町及び西目屋村並びに秋田県能代市、藤里町及び八峰町）等の協力を求めつつ、遺産地域を適正かつ円滑に管理するため、各種制度の運用及び各種事業の推進に関する基本的な方針を明らかにしています。



津軽白神森林生態系保全センターは

平成18年4月、青森県鯉ヶ沢町に「津軽白神森林環境保全ふれあいセンター」として設置、平成25年4月に「津軽白神森林生態系保全センター」に改組し活動しています。

活動内容は、世界自然遺産に登録されている白神山地の貴重な生態系の管理と適切な利用を推進するため、巡視活動やボランティアによる自然再生活動、NPO等への技術支援、林業体験等を通じた森林環境教育に取り組んでいます。



クマゲラ



アオモリマンテマ



シラガミクワガタ



シラネアオイ

主な活動内容

1 白神山地森林生態系保護地域（白神山地世界自然遺産地域）の保全管理

白神山地世界遺産地域連絡会議が主催する合同パトロールの企画立案、巡視報告のとりまとめ、関係機関との連絡調整等を行っています。ボランティア巡視員とも連携を図りながら、森林生態系の管理保全、入山マナーパンフの配布などにより入山者マナーの向上、違法行為や事故防止に努めています。



2 ニホンジカ監視体制の強化

東北森林管理局管内でもニホンジカの生息域が拡大しており、白神山地周辺の森林生態系への影響が懸念されています。平成26年度から、センサーカメラを設置するなど白神山地世界遺産地域周辺でニホンジカの監視体制を強化しています。



28年度は関係機関と連携し、99台（青森側61台、秋田側38台）のセンサーカメラを設置し監視にあたります。

3 自然再生活動

当センターが行っている自然再生活動は、白神山地世界遺産地域周辺のスギ人工林を抜き伐り、広葉樹の発生・生育を促していくもので、広葉樹の発生が少ない箇所には、植樹箇所近隣から採取した苗木を植栽しながら、広葉樹林へ移行しようとするものです。

(1) 「白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会」の設置

本協議会は、学識経験者・自治体関係者・ボランティア団体等の委員により、白神山地森林生態系保護地域（世界遺産地域）周辺の自然再生活動等、周辺地域の円滑な管理運営を図ることを目的に設置されました。協議会においては、白神山地森林生態系保護地域（世界自然遺産地域）周辺の保安全管理及び自然再生活動、モニタリング調査等に係る事項について協議し、森林管理局長に提言することにより、この地域の円滑な管理運営を図ることを目的としています。



(2) 自然再生マップ

平成20年度に策定した「白神山地周辺地域自然再生計画書」（自然再生マップ）は、自然再生の方向性、ボランティア活動の指針、活動メニューなどを作成し、多様な参加主体による自然再生活動の指針を示したものです。



(3) 一般ボランティアによる自然再生活動

平成22年度から、公募による一般ボランティアにより、スギ人工林を抜き伐りした箇所へ広葉樹を植栽するための苗木の採取、苗床への仮植及び植樹活動を実施しています。



苗木の採取



苗床への仮植



植樹活動

(4) ボランティア団体等との連携

白神山地周辺地域において、広葉樹の植樹やブナ林再生活動などを実施している日本山岳会青森支部、NPO 白神山地を守る会、各ボランティア団体が実施している自然再生活動等の技術指導や作業に当たっての安全指導を行っています。



4 森林環境教育

(1) 体験学習等

植樹、スギ人工林の間伐や枝打ち、丸太切り体験、木工教室などを通じて、森林・林業・木材、人との関わり、森林の多面的機能、緑とのふれあい等について、理解を深めてもらうため、こども園や小学校等に職員を派遣しています。



(2) 森林教室

白神山地世界自然遺産登録の意義を学び花や野鳥を観察することにより、自然に親しみ自然の仕組みや人と自然のつながりや森林生態系保全の重要性を理解してもらうために開催しています。



5 各種団体との協力・連携

日本ユネスコ協会連盟などによる植樹活動の技術支援や白神ラインの清掃活動など、各種ボランティア団体等と協力しながら、活動を行っています。



6 『活動展』の開催

毎年1年間の各種活動や職員が撮影した写真等を展示し、広く一般の方々に森林の持つ多種多様な生態などを知ってもらおうと、『津軽白神森林生態系保全センター活動展』を開催しています。



7 各種講演等

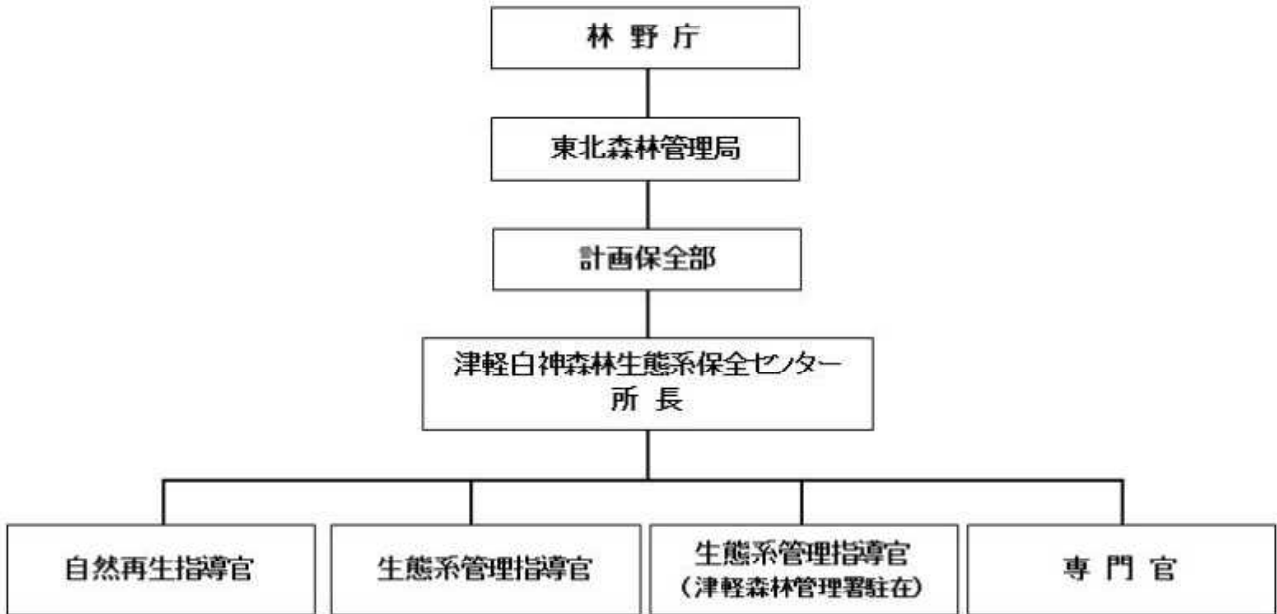
企業・各種団体や小学校の課外活動等において、白神山地に関する講演を行っています。

また、広報誌「白神の絆」を毎月発行し情報発信に努めています。

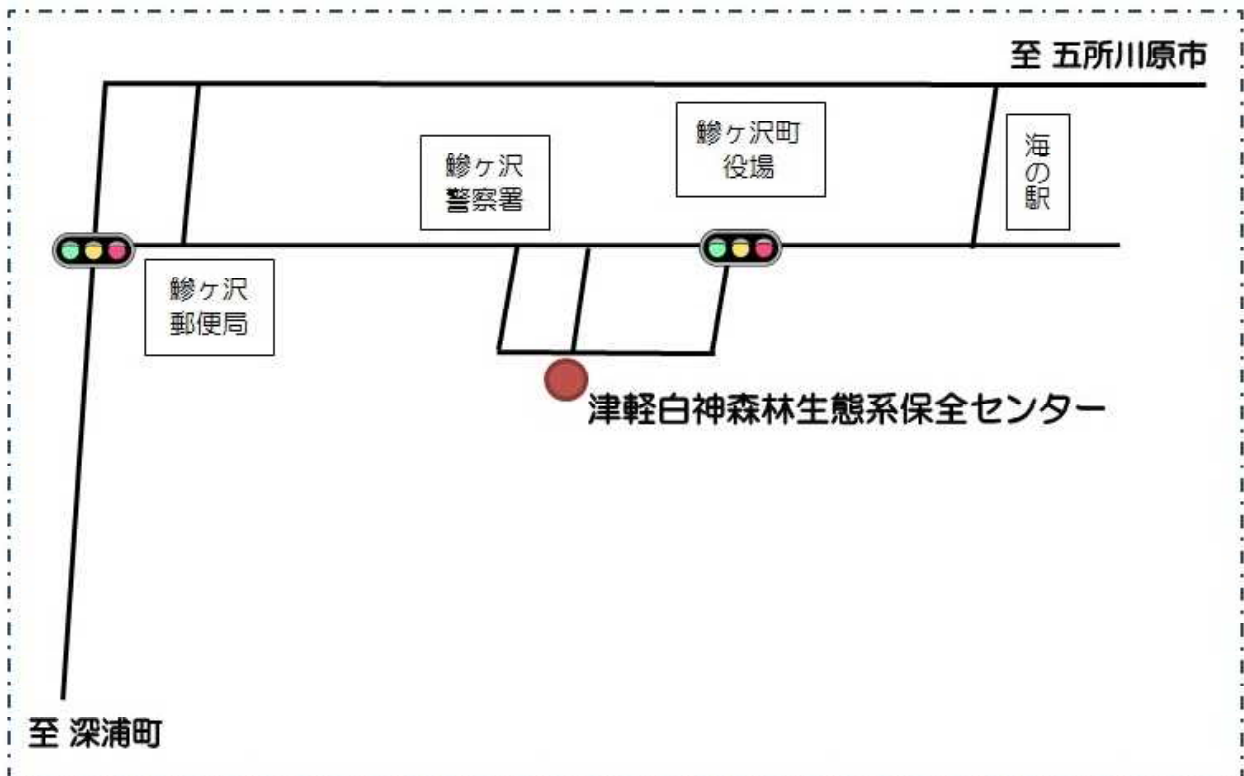


当センターでは、多くの皆様方に貢献できるよう各種活動や協力・支援を行っています。
森林環境教育、森林環境保全イベントへの職員派遣、白神山地について話をしてほしいなど、お気軽にご相談下さい。

組 織 図



津軽白神森林生態系保全センター案内図



津軽白神森林生態系保全センターのフィールド

屏風山は、津軽半島の西岸に広がる海岸砂丘地帯で、藩政時代から320余年にわたる防風・防砂林造成の長い歴史を誇っています。



屏風山の海岸林

十三湖河口付近では、冬、白鳥・カモ類や猛禽類のオジロワシなどの野鳥が見られます。



ベンセ湿原

ベンセ湿原では、6月中旬頃、ニッコウキスゲが咲き誇り、その後ハナショウブが咲き、一面が橙黄色から紫色に変わり、コジュリン・ホオジロなどの草原の野鳥も見られます。ベンセ湿原の近くには、約2万8千年前のエゾマツなどの埋没林があり、太古の歴史に触れることができます。

十二湖は、江戸時代宝永元年(1704年)の大地震による山崩れによってできた山中湖沼群です。実際は、大小33個の湖沼群が連珠のように分布していますが、海拔約940mの崩山(大崩)から12個の湖沼が展望できることから、十二湖と言われるようになりました。

津軽白神森林生態系保全センター



岩木山は、青森県最高峰(1,625m)で、青森県の西側に広がる津軽平野のほぼ中央に位置し、日本百名山の一つです。別名「津軽富士」とも言われ、古くから津軽の人々に愛されてきた名峰です。



岩木山

遺産地域及びその周辺部には、多数の貴重な動植物や遺産地域の保全利用地区には「暗門の滝」、周辺部の赤石溪流沿いには日本の滝百選の一つ「くろくまの滝」、津軽峠付近には推定樹齢約400年の「マザーツリー」などがあります。



十二湖：青池



くろくまの滝



津軽峠(夏)